

11 行動を起こす

- ・課題解決に向けた行動を起こすための、きっかけをつくる
- ・モデル的な取組や体験活動を通して、活動することの充実感や達成感を味わう
- ・社会の一員としての自覚や責任の下で活動に参加する

取組事例

47

R6 企業向け講座

～ SDG s 時代の企業における森林とのつきあい方について考える Vol.4 ～

三重県林業研究所



FSC認証の森づくりについて速水氏から説明を受けている様子

実施時期	令和 6 年10月～11月
実施場所	1 回目：速水林業所有の森林及び 研修室 2 回目：ウッドピア松阪
時間	1 日目： 5 時間30分 2 日目： 7 時間 全 2 日間
対象・人数	企業経営者及び従業員 20人
講師	全体指導：三重大学 青木雅生氏 1 日目：速水林業 速水 亨氏 2 日目：松阪木材(株) 久保 寛氏、 グリーンウッドタクミ協同組合 浦田 理氏、三重県木造住宅協同 組合 森下隆生氏
備考	県主催講座

めざす姿	11 行動を起こす （ 03 興味・関心を持つ、 06 知識・技能を身に付ける、 08 地域の課題に目を向ける、 09 地球の課題に目を向ける、 10 課題解決への参画）
ねらい	SDG s 時代における企業の森林とのつきあい方を考え、行動を起こす
内容	1 日目・森林や林業の課題についてグローバルな視野で学び、国際的な社会問題と森林との関わりについて考える ・代々人々が関わってきた林業地の生産性の高さと美しさを知るとともに、持続可能な森林経営について学ぶ ・企業の立場から、持続可能な森林資源の利活用や、森林とのつきあい方について理解と関心を深める 2 日目・原木市場や木材加工工場を視察し、丸太原木が木製品として売買される過程において、どの段階で関わりが持てるかについて考える ・木材流通や製材業の現状や課題について知り、そのことが森林や社会に及ぼす影響について考える ・森林・林業・木材産業の課題をふまえた森林資源の利活用について、参加企業及び視察先事業体等との意見交換を通して、SDGs時代における企業の森林とのつきあい方について考える

取組の内容

体験する

代々人々が関わってきた
林業地を視察している様子



1 回目

森林や林業の課題についての講義の様子



知る

2回目

体験する

製品市場の視察の様子



参加企業と視察先の事業体での意見交換の様子



考える

おしまい

原木市場や製材業についての講義の様子

知る



製材工場の視察の様子



体験する

参加者の
反応

- ・ 森林資源の生産方法に地域による違いや特性があることがわかりました。成長性があると感じられる業界であることが印象に残りました。
- ・ 林業や木材産業は若年層の方が多く働いていて、機械化もしているので、必ずしも職人にしかできない難しい世界と言うわけではないことがわかり、認識が変わりました。
- ・ 他の参加企業の取組が非常に参考になりました。
- ・ 参加企業の皆さんが、それぞれ森につながる取組を行っていることが印象的でした。
- ・ 木材を生産して売るだけでは採算が合わないというお話は、前々から聞く機会がありましたが、実際に現場を見せていただき、そこで働いている人に出会い、現場の声を聞くことができたのは、とても貴重な機会だと思いました。
- ・ 公私ともに、手にするものを少しずつ、思いのある方々の木材や加工品などに変えていきたいと考えています。また、林業や木にまつわるストーリーをこれからも少しずつでも発信していきたいと考えています。
- ・ 林業は持続可能な社会にとって必要であるものの、流通単価が低く、なかなか稼ぐのが難しい業界だと感じた。ただ、ブランディングにまだまだ改善の余地があるように感じており、一般人やサプライチェーンの各企業に、もっと林業の良さが分かってもらえるようにできそうだと考えた。
- ・ 植林などのボランティア活動の企画があれば、企業として参加してみたいと思いました。
- ・ 事務所内をリフォームする機会があれば、机や壁等に木材を使うなど可能と思いました。
- ・ 受講する前は林業と言う仕事は、木を育てて伐採するだけというイメージだったのですが、実際は苗を植えても成木になるまで40年間くらいかかり、伐採した後の加工も簡単なものではなかったので大がかりな仕事だという認識が変わりました。
- ・ 木材の機能性や価格、流通形態について、世間一般の認識は非常に低いように思う。最近CLTなど、新たな木製材料も開発され、木製ビルなども建設が始まっており、時代は「木造」の流れがきているように思う。
- ・ この講座のような活動に理解を示される経営者を増やしていく必要がある。
- ・ 働き方が多様化する中で、森林の中でのワーケーションやミーティングも環境次第で、自社の取組として可能と思われる。
- ・ 他業種の皆さまと共に講座を受講し、自分では普段気づけない新たな視点から林業について考え、学ぶことができました。